

授業概要

インターネットやスマートフォンが普及した現代社会は、個人化や流動化が進み、ますます不透明かつ捉えがたい存在になりつつある。こうした現代社会を読み解くために有効なアプローチのひとつが、流行現象として人々の関心を集め、社会と密接な関係を構築しているポピュラー音楽を分析対象とし、社会的トピックスを抽出する方法である。

本講義は、ポピュラー音楽の楽曲やアーティスト、それらにまつわるエピソードなどを事例に、そこから抽出される多彩な社会的トピックスについて、社会学やメディア論の主要な研究業績を参照しながら、映像資料や音響資料を用いて講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション——（導入）「スタンダード・ミュージックとしての『翼をください』」
第 2 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（1）「地域社会」
第 3 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（2）「学校教育」
第 4 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（3）「レジャー」
第 5 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（4）「政治」
第 6 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（5）「経済」
第 7 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（6）「人間関係」
第 8 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（7）「ジェンダー／アイデンティティ」
第 9 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（8）「恋愛」
第 10 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（9）「出会い／相互行為」
第 11 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（10）「ツーリズム」
第 12 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（11）「都市」
第 13 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（12）「祝祭空間」
第 14 回	ポピュラー音楽で読み解く社会（13）「AI（人工知能）技術」
第 15 回	講義全体のまとめ
第 16 回	学期末レポート試験

到達目標

- 社会的トピックスを読み解くための基礎的な知識や視点を持つことができる。
- 社会的トピックスについて、何となくのイメージや好き／嫌いという表層的な視点ではなく、分析的な視点を用いて客観的かつ具体的に論じることができる。

履修上の注意

- 講義では映像や音源を数多く紹介するため、毎回の積極的かつ主体的な参加を期待します。
- 講義で紹介するトピックスと、受講生自身が興味関心を持つ事例（ニュース、作品、アーティストなど）とを照らし合わせて、自分なりに考察を深める習慣をつけてください。

予習・復習

- 予習：次回の講義で扱うテーマについてインターネットや参考文献等を利用した自主学习を行う。関連する最新のニュースにも目を向けておくこと。
- 復習：レジュメや参考文献に目を通し、重要事項をノートに自分の言葉でまとめること。興味関心のある事例について考察する際、参照することができる自分だけのデータベース構築を目指してほしい。

評価方法

- 学期末レポート試験（70%）
- コメントカードおよび講義への参加態度（30%）

テキスト

- テキストは特に指定しない。
- 毎回の講義でレジュメとコメントカードを配布する。
- 毎回の講義で参考文献や参考資料を紹介する。

授業概要

社会とは、さまざまな社会関係が絡み合う複雑な塊である。この社会学Ⅱでは、社会学Ⅰで学んだような個々の社会関係が、相互にどう影響しあって全体社会を構成しているかについて講義する。家族、職場、学校や地域と関わりながら生きる現代人が、これら複数の社会領域の要求に応えるためにいかに奮闘しているのか、またそうする上でどんな困難や問題を抱えているのかを、具体的な事例を見ながら考える。また、それらの問題が現在、社会的にどう解決されようとしているかについても触れ、現代の日本社会とその中に生きる私たち一人ひとりの可能性について考える。なお、この授業は社会学の応用編と位置付けられるが、社会学Ⅰを受講していなくても十分理解できる内容である。

授業計画

第1回	全体社会を見る切り口としての労働
第2回	日本的組織の特徴と近年の変化
第3回	男性・正社員の労働とその問題点——働き過ぎ
第4回	女性の労働とその問題点——家庭内労働と雇用労働の両立困難
第5回	女性の就労支援の現状
第6回	非正規労働とその問題点——不安定就労
第7回	働きやすい社会へ向けての取り組み
第8回	「私らしさ」とは何か——役割演技と社会的人格の形成
第9回	「男性／女性としての私」を作るしくみ
第10回	多元的価値を育む社会へ
第11回	ラベリングとネガティブな役割の引き受け
第12回	「障害者としての私」を作るしくみ
第13回	バリアフリー社会への変容
第14回	全体社会の構造を展望する——格差社会としての現代日本
第15回	全体のまとめ
第16回	筆記試験

到達目標

- ・現代日本社会で起きている諸現象や、いま社会問題となっている事柄についての基本的な知識を持つことができる。
- ・学んだことについて自分なりに整理して意見を述べられるだけの、考察力を身につけることができる。

履修上の注意

この授業は特定のテキストを用いるものではないので、毎回の授業をきちんと聞くことが不可欠である。積極的に出席し、学んだことをもとに社会現象について考えていこうとする、意欲的な態度での受講を期待する。

予習・復習

授業で紹介する参考文献やインターネット等を利用した自主的学習をしよう。授業で扱ったテーマに関連する社会観察や考察の課題を出し、その結果を授業内の小レポート等で書いてもらうことがある。

評価方法

学期末試験 70%、授業内に書く小レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年 (ISBN)：